

Title	米価の前途
Sub Title	
Author	気賀, 勘重
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1918
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.12, No.6 (1918. 6) ,p.756(52)- 779(75)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19180600-0052

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

米價の前途

氣 賀 勘 重

最近三四年間石價十四五圓を中心として低きは十二三圓高きも十八九圓の外に出でざりし米價が昨夏一度漸騰の傾向を示し、秋期に入りて其騰貴の歩調頗る急激と爲り遂に二十圓臺を突破するに及んで米價暴騰の聲漸く四方に喧傳せられ更に數月ならずして二十一圓と爲り二十二圓に進み二十三圓と爲り遂に定期市場の「レコード」たりし彼の大正元年の相場を突破するに至りて米價暴騰調節の必要漸く各方面に唱へらるゝに至れり。然かも尙ほ米價の騰貴は毫も其趨勢を改むるの模様なく騰貴に次ぐに騰貴を以てし石價二十五圓二十六圓と益々其歩を進むるの實あるに及び下級民生活難の聲は政府當局の調節怠慢を責むるの叫と共に愈々益々高まり來り、時の議會も亦其意味に於て物價調節の要求を當路の

有司に提議することゝ爲れり。

依是觀之、最近に於ける米價調節の要求は常時恆久の策として米價の一定不變を求めんとするもの非ず。只眼前の米價を非常の高價なりと認め之が引下の策を講せんとを要求するものなり。三四年以前に於ける米價調節の要求の生産者の爲に唱へられたると正反對に這回の要求は消費者の立場よりして一般國民の福利の爲に其騰貴傾向の抑制否な寧ろ其價格下落の傾向を誘起せんとを時の當局に要求するものなり。消費者より觀れば其消費物件の價格の可及的低廉なるを望むは自然の數なれども、又一方には其生産者の利益の考慮を必要とするものあり。獨り消費者の利益のみを主張するは如何なる場合に於ても決して當を得たるものに非ず。敢て問ふ最近の米價果して此等調節主張者の唱ふるが如く過度の高價にして實際に一般民衆の生活を甚しく危険ならしむるものなりや否や。

二

熟らく最近數年間に於ける米價の趨勢を觀るに明治四十二年末に於て定期正米共に十一圓に下り四十三年度を通じて十一圓乃至十四五圓の間に在りし相

場が四十四年度及び四十五年度の比較的不作の爲に一躍して二十圓前後に騰貴し、殊に四十五年及び大正二年の二個年間は定期正米共に常に甚だしき高價を持續して正米の如きは殆ど全く二十圓を下りしことなく以て大正三年度に入れり。然るに大正二年度の秋收は世人の想像以上に稍豊富なりしもの、如く従つて大正三年度に入ると共に定期正米共に漸落の歩調を示し同年度の大豊作の豫想確立すると共に米價は急轉直下して同年末に定期は十二圓正米亦十三圓の低位に達せり。爾來連年の豊作は復た米價の騰貴を許すことなく大正四年度より五年度に互りて米價は常に十三四圓の程度を維持し來り、農民殊に米作地方の農民と地主階級の所得寡少に伴ふ生活難は益々加はり來りて米價調節、農村救済の叫は朝野に喧傳せらるゝに至れり。所謂る民意の迎合に熱心なる當時の政府が窮迫せる當時の財政より巨資を投じて應急的の調節を試みると共に、一方には朝野各方面の識者實際家を集めて恆久的の米價調節方策を攻究審議する所謂る米價調節調査會を開催するに至れるは正に此時なり。

米價調節調査會に於ては微温的なる三四の應急的調節策の立案建議せられ、政

府當局亦其一部分を實行したるに拘らず米價は遂に所期の騰貴を致せるの實なく、大正三年の初期に試みられたる政府の正米買收策も、米價調節調査會の建策に従つて行はれたる地租納期の繰下も將た又多くの場合に於て穀價騰貴の原因と爲るの常なる對外開戦も殆ど全く當時の豊作に伴へる米價の大下落を制止するに由なかりき。即ち大正四年度より同五年度を通じて定期正米共に石價十三四圓より高くとも十五六圓の間を往來し、戦争の爲に爾餘各種の日用品並に多數の農産物の著しく騰貴を示せる間に於て獨り此主要なる農産物のみは世間多數の人士の認めて以て正當の價格と爲す程度以下の低價を持續せり。

唯大正五年度末の頃に於ては米價稍々持直せしもの觀ありしも敢て特に言ふに足るものなく、以て大正六年度に入りしが該年度も亦前半期中は大要前年度と異なることなく、縦令ひ多少の騰貴あるも都市下級の消費者すら尙ほ米價の割合に低廉に過ぐるを認めて怪まず、寧ろ尙ほ一層の騰貴を當然視するの有様なりしなり。然るに夏期に入り秋收の豫想に對する幾多の天變時に往々認めらるゝに及びて形勢は急に一轉し騰貴の勢漸く成るに至るや、其形勢の變化は亦甚だしく世

人を驚かすに足るものあり。一度昂騰の形勢を示せる其風潮は殆ど停止する所を知らざるもの、如く、大暑期の照込も殆ど全く下落の趨勢を促すことなくして漸騰の勢を持続し更に近來未曾有の大秋霖に際しては奔騰又奔騰遂に冒頭所述の如き形勢と爲りて農商務省の秋穫豫想の比較的樂觀的なりしに拘らず、相場は日に月に益々進み、同年度中既に夙に二十圓代を突破して定期市場は正に六年前のレコードを突破せんとし、三年前の米價調節時代を回想する人士をして反對の調節の近く其必要を生ずるなきやを想像せしむるに至れり。

然り而して此騰貴の趨勢は農商務省の實收統計の平年作以上を示せるに拘らず今年に入りて尙ほ益々甚だしく定期市場は夙に往年のレコード相場を突破して二十四圓二十五圓と急速の騰貴を示せるのみならず、正米市場は更に其以上に出で、益々其前途を寒心せしめたり。是に於て世上言論界の其調節の必要を絶叫せるのみならず、議政府又等しく之に和するに及び政府當局亦晏如たる能はず、或は暴利取締令の適用を試み、或は定期標準米の格下を實行して只管此奔騰の勢を殺がんと苦心するありしも、實際の成行は言論界並に政府當局の希望に反し、政

府の所謂調節策の其歩を進むるに伴ひて相場は却つて益々騰貴せり。今五月の初旬に至り昨年度に比し其標準格に於て石價約一圓を低下せる定期米は遂に一石二十七圓三十九錢と云ふ未曾有の相場を現し正米相場は更に其上に出で、一石二十八圓餘を唱ふるに至りて正に騰貴の絶頂に達せり。惟ふに此際に於て彼の外米管理令の公布なく當局の威壓的態度の表示なくんば米穀市場は更に一段の興奮を致す可く、當時の強氣者流の夢想せる石價三十圓の相場も強ち其實現の必無を保す可らざるなりしなり。

要するに最近一個年來殊に其六七ヶ月間に於ける米價の奔騰は近來稀有の現象なり。若し我が米穀にして其供給の大部分を外國に仰ぐこと彼の鐵又は棉花等の如きものならしめば、而して其供給が戰爭其他特種の事情に依りて杜絶又は著しく減せられたる場合ならしめば、斯る暴騰も敢て怪むに足らざる可しと雖も、其供給の殆ど全部が内國の生産に係り、而して其生産が兩三年前の豊作時に比し稍々劣れりとするも、然かも兎に角平年作以上に在る今日の米穀に於て、昔年ならざるに其價格の殆ど二倍に近き騰貴を致せるは實に異數といはざるを得ず。爲

に苦めらるゝに至れる多數の消費者が生活難を叫び其調節の必要を呼號する亦宜なりといふ可し。

三

然れど斯る價格の變動は我國に於ける米穀の需要と供給の特異なる關係より觀れば決して怪む可きの現象に非ず。即ち我國民の米穀殊に内地産米に對する嗜好の頗る強烈にして容易に外米其他の代用食物に移るを肯んせざるの事實は内地米に對する需要をして甚だしく弾力性を缺かしむるものあり。元來何れの貨物に在りても價格の騰貴は一方より觀れば需要者中比較的購買の希望薄弱なる者をして賣買場裡より引退せしめ、依つて以て實際の需要を減縮して之を供給に適合せしむるの手段たると共に、價格の下落は之と反對に従來の高價にて購買の希望を抱かざりし人士をして購買の望を發せしめ依つて以て需要を増加して供給に適合するに至らしむるの手段たるなり。而して幾多の貨物に在りては僅少の價格騰貴以て多大の需要減退を促すに足り、輕微の下落以て多大の需要増加を促すに足るの事情あり、其需要は頗る弾力性に富むの實あれども、我が米穀に在

りては事情正に前述の如きものあるを以て需要の増減甚だ容易ならず、社會一小部分の人士をして米穀の需要を節省せしめんが爲には多大なる價格引上を爲さざれば能く其目的を達し得ざると共に、需要の増加を促すも亦斯の如く非常なる價格下落に依らざれば容易に需要の増加を喚起し難きの實あり。而して需要の此弾力性の缺乏は國富愈々増加し一般民衆の購買力益々加はると共に愈々益々甚だしきに至るの傾あり。是れ我國に於ける米穀の秋收の僅少なる相違の爲に其價格に著しき變動を生ずる所以にして、又其變動の近來益々甚だしきを加ふるに至れる所以なり。

縱令ひ需要の方面に弾力性なしとするも之に對する供給にして弾力性に富み、其價格の騰落に依つて容易に供給の増減を致さしむるを得ば、甚しき價格の變動は之を免れ得可しと雖も、我が内地米に至りては一年一回の收穫にして秋收の豊凶一度定まれる以上、次期の秋收期に至るまでは如何にするも其供給を増減する能はず。一朝不作に際しては非常なる價格の昂騰に依りて其需要を減退せしめ之が補充を外國米其他の代用品の供給に求めしむるの外なきと共に、一朝豊作に

會し供給に多少の餘剰を生ずるに當りては其餘剰を海外に輸出するの外、供給を調節するの途なし。然かも我が内地米特有の風味は毫も外人の覺知する所に非ず、其不充分なる乾燥は却つて蘭貢西貢等の外米よりも外國に於ける販路を少からしむるものがあるが故に非常の低價に非ざれば輸出容易に行はれざるの實あり。需要弾力性の缺乏は輕少の不足以て多大の價格暴騰を促すの原因たると等しく、供給の此弾力性缺乏は豐年期に於て著しく其下落を喚起するの作用を爲すなり。需要及び供給に於ける些少の増減以て多大の價格變動を喚起するに足る斯る事情は一面に於て大に投機者流の活躍を誘致するものあり。而して其投機者の態度如何に依りて價格の上に異常の變動を生ずる場合も亦決して少なからざるなり。蓋し一朝供給の過剰又は不足の豫想確立するや其豫想に基づきて極力賣又は買の態度に出づるは投機商人の常なるが故に、商人の此賣又は買の爲に供給の過剰又は不足は實際の程度以上に過大又は過少と爲りて相場を極度まで奔馳せしむること少なからざればなり。主要穀類の相場の激變に際して其相場激變の罪を投機者流に歸するの風各國に普ねきは畢竟斯る事實あるが故にして、我國

に於ける米價調節論の常に其手段の一を取引所の改良に求むるの風あるも亦要するに之が爲なり。

加ふるに米穀の需給關係を目的とせる投機的行爲は單に商人殊に投機商人のみに止まるものに非ず。廣く觀察を及ぼせば農家一般殊に全國多數の地主は概ね皆此行爲に出づるなり。即ち米作豐饒の見込立ちて將來の米價廉なる可しとの豫想廣く社會に行はるゝや地方農家は一般に賣急の舉に出でずとするも少なくとも賣惜の態度なく、隨時其持米を賣放つに躊躇せず市場の出穀従つて豐なるの常なれども、一朝不作又は其他の供給不足の見込立つ場合に於ては將來の騰貴を豫想して容易に其所有米を賣却することなく、資金の必要あるに際しては負債に依りて之を辨じつゝも然かも尙ほ其在庫米を維持して只管高價の上にも更に高價なる時機を待つ風あり。即ち供給不足の觀あるに際しては全國の地主農民舉げて強氣の投機を試みつゝあるの狀あり。爲に市場の出穀を減少して米價の奔騰を助成するの實あるは從來常に見る所にして、然かも此種の提議は近年農村の金融進歩し農民の資力豊富と爲れると共に益々増加せるの風あるを見る。

斯る投機は他日騰貴其極に達して下落の風潮一度發生するの際に及び一般の投賣を促がして其暴落を誘起するの原因と爲る次第なれども、米價昂騰の際に當りては復た斯る考慮を廻らす者少なく滔々相率ひて其激變を醸成するの舉に出づ。眞に嘆ず可き次第にして、先年米價調節調査會の會議に當り正米商の一員が調節の一案として農家の持米均分賣却即ち毎月一定額宛を均等に賣却するの舉に出づるの必要を唱へたる如き正に此投機の弊害を喝破したるの至言なれども、一般農家の自覺なき限り之を強制するの途なきは現經濟制度の一缺點にして亦如何ともす可らざるなり。

兎に角我が米價は米穀の需要供給共に著しく其弾力性を缺けると此缺乏に對する商人及び米穀生産者の投機的行爲とに依りて著しく騰落するの性質を有せり。而して此激烈なる騰落は輒近一般の購買力と信用の進歩に依りて殊に著しきを致せること復た争ふ可らず。果して然りとせば最近に於ける如上の激變の如き亦決して甚だしく異とするに足らず。既往の米價史を觀れば斯る實例は明治初年以來現に數次實現せし所にして近くは明治四十三五年度の間に於ける變

動の如き亦其一なり。唯其唱ふる價格が未曾有の高價なるを觀て其未曾有の現象なるに喫驚するは一般の購買力の増進並に爾餘物價の騰貴を顧慮せざる短見者流の偏見と稱す可きなり。

四

然れど兎に角東京市場の定期米一石廿七圓餘之を昨年中に於ける定期標準米に換算すれば石價二十八圓餘に相當するの價格は稀有の暴騰たるに相違なく、近來物價調節の議論盛なるの際に於て其調節論の廣く喧傳せらるゝに至りし所以亦怪むに足らず。蓋し米價の騰貴は其影響を蒙る者甚だ多く、而して其利益を享くる者は其數多しとは云へ兎に角國民の一部分たる地主農家に過ぎざるに、其不利益を蒙る者は全國の消費者全般なる次第なれば、其暴騰に對する反感の急速に廣く一般に傳播するに至れるは當然の成行といふ可し。加之、時恰も諸物價騰貴の影響を受けて一般民衆の生計漸く困難を加へ來れるの際に當り、此主要食料品の暴騰あり。一般に一層の生活難を加ふるものあるは當然の次第なる上に、更に此困難を感ずること最も大なる階級が概ね恰も我國の識者階級殊に言論社會の

牛耳を取れる定額所得者階級に屬するの實あるの場合に於て、殊に此調節論の喧しきに至れる所以亦決して察知する難からざるなり。

要するに最近に於ける物價調節殊に米價調節の要求は最下層の勞働者階級よりも寧ろ中流階級に於て其聲の大なるものあり。社會の識者並に政府當局の之に傾耳すること従つて又從來よりも著しく、政府は此に其要求の意を容れて種々なる米價調節策換言すれば米價の騰貴抑制又は下落誘起の方策の研究と實施に着手せり。暴利取締令の適用たる商人の賣惜買占に對する戒告、定期標準米の格下、米穀取引所に於ける違法取引の檢舉、米穀輸出の禁止等何れも其類にして、然かも此等施設の效果の殆ど認む可きもの無きを見るや、當局者は其の所謂斷然たる處置に出で、外米管理令を公布實施して以て漸く其目的の一端を達し得るの曙光を認むるに至れり。

今熟らく、此間に於ける政府當局の態度を觀るに、當局者は當初暴騰の原因を尋ねて之を米穀商人の投機的買占賣惜に在りと爲したるもの、如く、商人の此買占賣惜をだに制限し得ば供給は以て需要を満たすに足り、米價は自ら其正常に歸

す可しと認めたるの觀あり。是れ極力賣惜買占等の投機的行爲の制限を畫したる所以なる可しと雖も、凡そ商人の斯る行爲に出づるや必ず先づ斯る行爲に出でしむる原因の存するあり。供給の實際に不足なる可しとの豫想は即ち是なり。此豫想にして明に撤せられざる以上商人の此投機的行爲は決して止むものに非ず。縱令ひ從來の商人の此行爲を嚴禁し得たりとするも、他の商人の代つて此行爲に出づる者の簇生す可きは商業社會自然の數なり。之を例すれば商人の利に走るは恰も蒼蠅の臭に付くが如し、一度之を拂ふも直に之に走る者の現はるゝは自然の然らしむる所なりとすれば、一部商人の戒告所罰又は一部取引の停止の如き到底以て此投機の大勢を動かすに足らざるなり。況んや此投機に携はる者は前述の如く單に商人のみに止まらず、地方在住の一般の地主農民亦それゝに相應の投機を試みつゝあるの實あるに於てをや。政府當局の當初の施設の其目的を達するに足らざりし所以又以て知る可きなり。

五

此に於てか政府當局も斷然意を決して供給不足の豫想を打破する策に出で、外

米管理令を公布して之が實施に着手するに至れり。外米管理令は一言以て之を表すれば外國米の輸入及び販賣を政府の管理に付するものにて即ち一種の外米專賣法なり。其規定に據れば政府は自ら外米を輸入販賣するか又は一定の指定商人をして之が輸入販賣を爲さしむるものにて其價格は當局の適宜に之を一定するの定なり。而して政府當局は此規定に従ひ直に豫め輸出を禁止せる保税倉庫の在米を買收し、又一方には相當の買付を原産地に於て決行して順次之を輸入す可き旨を發表したるのみならず、神戸渡の外米賣下直段を一石十八圓七十五錢と定め且つ之に準じて横濱其他の重要市場に於ける賣却直段を一定して本月二十日より之を實行することとせり。世間或は政府這回の發表規定に卸賣直段を一定せるも小賣直段を規定する所なきを觀て其小賣直段の各地趣を異にす可く又地方に依りては其騰貴必ずしも免れざる可しと難する者なきに非ざる可しと雖も、惟ふに是れ一種の杞憂のみ。卸賣の直段既に公表せられ、政府亦相當の注意を以て之が供給に任じ且つ其價格の調節を策せる上に、更に暴利取締令の武器を以て商人に蒞む以上、甚だしき小賣價格の引上は到底實現さることなかる可きなり。

要するに外米管理令は外米の管理令なり。其關する所は外國米のみにして内地産米の市價は直接其關する所に非ずと雖も、苟も外米が内地米に比し價格一定の程度以上の下位に下る場合に於て内地産米の消費に代ふるに外國米を以てする者益々増加さるゝの實ある現下の社會に於ては、其外國米の價格引下は亦同時に内地産米の下落を伴はざるを得ず。外國米の供給にして限定せられ將來に於ける其輸入望なしとせば其一時の引下は到底内地米の下落を誘起するに足らざる可く、却つて外米の相場は内地米に引付けられて寧ろ直に騰貴するに至る可しと雖も、外米の價格が政府に依りて一定せられ、然かも政府自ら其供給の衝に當りて損失をも顧みず需要のあらん限り之に應ずるの覺悟を示せる以上、外米の騰貴の餘地は全然存せざるものといふ可く、従つて内地米は此外米相場に引付けられて相當の程度まで引下げられざるを得ざる可し。這回の外米管理令にして眞率に繼續的に實行せらるゝ限り我が米價の前途は推して知る可きなり。

果して然らば我が米價は近き將來に於て如何なる程度に歸着す可きか。外米

管理令が直接外米の相場を一定すると共に間接に我が内地米の價格を一定せんとするものなる以上、其一定す可き價格は何邊に在る可きか。既往十年間の事實に之を徴するに蘭貢特等米と内地中米との價格の相違は東京市場に於ては少なくも一圓を下らず、大なる場合には六圓五十錢の直開きを見たることあれども、それは概ね米價暴騰せる大正元年度及び二年度に起れるの事實にして、其他の年度に於ては二圓内外に在り。而して一般に米價低き時は内地米價は外米相場に接近せるも、米價の騰貴するに從ひ其相場の懸隔は益々甚だしきに至るの狀あり。内地米價二十一・二圓の高價を示せる際には蘭貢米と内地米との差は常に四五圓前後に在りしを見る。惟ふに是れ前述の如く内地人民の内地産米に對する嗜好非常に強烈にして、從來内地米を消費せる者をして其一部分を外米に代ふるに至らしめんが爲には多大の價格騰貴を必要とするが故なる可し。

此等の事實よりして之を推す時は米價昨今の如く高位に在るの場合に於ては蘭貢特等米と内地中米と相場の相違は少なくとも三四圓を下らざる可く、内地米の供給不足額割合に大にして彼の大正二年度に於けるが如く多數の人士に外米

代用を強ゆるの必要ありとせば其差は五六圓の多きに達せざるを得ざる可し、況んや一般の物價騰貴し民衆の購買力亦向上せる今日に於てをや。時に或は七八圓の直開きを示すに非ざれば外米の需要に依りて内地米の需要を其供給に適合せしむるに足らざるやも亦未だ知る可らず。要するに昨年度の内地産米の實收如何と其不足の爲に實際外米の代用を爲さざる可らざる從來の最低位の内地米購求者の多寡及び其購買力如何に依りて此直開きの程度は決せらる可し。唯農商務統計の報告にして其正確の程度從來と大差なしとせば昨大正六年の收穫は五千三百餘萬石にして平年作の上に在り。從つて實際の供給不足は割合に寡少なる可く、外米の輸入亦甚だしく多きを要せざると共に、從來の内地米消費者をして外米消費者たらしめざるを得ざる其數も割合に少なかる可く其結果此直開きは割合に少なく或は四五圓程度に止まるなる可しと思惟せられざるに非れども、他の一方に於て戦争景氣以來物價騰貴し一般の消費力著しく加はり來れる今日の社會に於ては其の果して然るや否や未だ卒に斷言するを得ず。將來に於ける事實の證明す可き所にして投機者流の思惑の存する餘地尙ほ此に充分に存在

するなり。

兎に角明確なる豫測の下し難きこと斯の如しと雖も此内外米の直開の程度を別とすれば其以外に大なる相場の変動は苟も外米供給の實際に政府に依りて實行されつゝある限り復た發生することなかる可し。今此直開を従來の事實より推斷して四五圓なりとせば東京市場の内地米相場は東京渡外米賣下直段一石十九圓二十五錢に此四五圓を加へたる二十三圓強と爲る可き計算なり。但し這回の賣下米の標準直段は蘭貢二等米の直段なりといへば特等米との直開きは一圓内外に達す可きが故に更に之を加ふれば一石二十四圓強となる可し。即ち石價二十四五圓の邊に達すること今後の米價の歸着點にして政府當局の目的とせる想定正常價格も亦正に此邊に存するなる可し。政府が斷乎として斯る決心を以て其調節に着手したる以上、廿七八圓に奔騰せる米價が急轉直下數日ならずして定期二圓五十錢正米壹圓五六十錢の暴落を示せるは當然といふ可く、而して今日の相場も此點より觀れば尙ほ高きに失するの觀あり。暴落期に普通隨伴する一時的の反動すら遂に見るに至らずして依然下落の傾向の繼續する眞に宜なり

りといふ可し。要するに米價動搖の範圍は此外米管理令に依りて局限されたり。今日其相場の一定せざるは唯々前述の内外米直開の程度の一定し難きものあるが爲にして、正米並に定期米の今尙ほ二十四五圓程度に下らざるは此直開の四五圓以上に在るを豫想する者尙ほ割合に多きが故に外ならざるなり。

六

米價の前途又以て其大體を下し得可きが如しと雖も、翻つて之を顧れば尙ほ幾多の疑念の其間に存するものなきに非ず。今や初夏漸く進みて其天候の本年度の米作に影響を及ぼすの時機正に近からんとし、其變動既に米價に多少の影響を及ぼさんとするものあるのみならず、斯る變動は例年の事實、殊眼前の米穀供給に關係なき事柄として暫く之を不問に附するも、外米管理令其物の將來亦甚だ疑を容るゝの餘地存すればなり。蓋し最近一二ヶ月間の米價激變一時世人を呆然たらしめ漫然其調節の必要を認むるに至らしめたりと雖も、何れの物價調節にも伴へる不公平、其他の弊害は此管理令にも亦免るゝ能はず。従つて人氣の漸く沈靜すると共に之に對する反對の社會の一隅より發生し來る可きは勿論、之に對する

種々の障害並に防害亦免る可らざる可ければなり。

即ち其第一の疑問は外米十九圓内地中米二十四五圓の此想定相場が果して當を得たるの價格なるやの一事にして、此相場若し比較的過低なりとせば此調節策は生産者を苦むる不當の施設たるを免れず。之を既往の米價に徴すれば二十四五圓の石價は決して低きに非ずと雖も、戦争以來諸物價騰貴したる今日米價は果して此邊を最高限度と見做し得可きやは確に一疑問たり。去る大正四年米價調節調査會の開設せられし當時政府當局が大正三年度に於ける各地方の事實を調査して算定したる米穀の正當なる價格は十四圓を最低十八圓を最高として其平均十六圓を米穀の理想中直とせり。今當時の物價を取りて之を今日に比較すれば重要商品の平均直段は八割一步を増加せりといふ。若し之に準じて米穀の生産費増加したるものとせば今日の米價は最低二十五圓三十錢最高三十二圓五十錢にして其平均二十九圓二十錢が正當なる米價と認めらる可きなり。惟ふに米作を主とする農家の經濟よりせば米價此邊に達せざれば今日の物價の下に普通の生計を營むこと難かる可し。然るに外米管理令の想定米價は遙に此以下に在

りとせば早晚此方面よりして其反對の聲發せらるゝに至る可く、地主農民の數割合多數なる我國に於ては其反對が有力なる運動と化するの時亦到らざるを保せざる可し。況んや其反對にも亦有力なる理由の存するに於ては政府當局も無碍に之を排斥するを得ざる可し。

縦令ひ此方面の反對を避け得たりとするも此外米管理の爲に政府の負擔の著しく増加するに於ては亦其持續困難に陥ることなきを保す可らず。政府の外米買入價格其他の經費並に買入數量は公表されざるを以て今其額を明知し難しと雖も、保税倉庫在米の買入に於ては政府は總計一石に付五圓五十錢の損失を負擔して之を賣下ぐるの計畫なりといふ。外國買入の經費亦略々之に等しとせば百萬石の買入は五百五十萬圓、二百萬石の輸入は總計一千百萬圓の政府負擔と爲る計算なり。我が目下の財政窮迫に非ずと雖も一米價調節の爲に無制限に此損失を引受け得可きやは確に一疑問なり。政府當局の想像は百萬石乃至二百萬石の輸入以て供給の補足に十分なりと見做せるなる可しと雖も、爾今二三ヶ月間に若し天候不良を示し地方農家明年を懸念して賣惜を爲すの風を示さば政府の輸入

所要額は決して一二百萬石に止まらざる可し。果して然らば外米相場を引上ぐるか若しくは此專賣を停止して自由輸入と爲すの外なかる可し。此點に關する將來の懸念頗る大なるものと共に、船腹の世界的に不足せる今日充分の輸入を續行し得可きやも亦大なる懸念ならざるに非ず。觀じ來れば外米輸入の前途は尙ほ甚だ樂觀し難きものあるを免れざるなり。

萬難を排して實際に必要な程度の輸入を敢行し得可しとするも、若し商人又は農民の投機の方に於て能く此輸入額程度の内地米を吸収するの時ありとせば、其結果は爲に妨害せられざるを得ず。今日突然なる政府の行動に此種の投機は一時閉息して却つて弱氣の投機者流の跋扈を促したるの觀ありと雖も、政府の輸入能力の程度一度此等の投機者流の透視する所と爲らば其再起的活躍復た必無を保す可らず。況んや如上の反對並に困難の少しく政府を苦むるの狀現はるゝの時に於てをや。投機者の反抗的活躍は必ずや一段の勢を加ふるなる可し。而して若し斯る場合に於て政府の方針多少動搖の徴を示さば最近に起れる暴落以上の反動的暴騰は免れざる可し。若し之に反して強氣の騰貴の再興せる場合に

政府尙ほ之に反抗して愈々益々其輸入を増加し斷乎として其投機の銳鋒を防止し得たりとせば其結果は或は輸入の増加と爲り意外の暴落を生ずるなきを保す可らず。加ふるに本年度の豐作の聲此反動的暴落を助くるが如きことあらば再び米價引上を目的とする調節の要求の其年内に發生するも亦免れざることある可し。

何れにしても此管理令所定の手段を巧に運用して世間の大反對を買ふことなく、投機的商人の術策に陥れらるゝことなく適度の輸入に依り適度に供給を調節して所期の米價を維持するは一大難事に屬せり。然かも政府當局にして能く此難事に堪え需要に應ずるの供給を繼續する以上米價は甚だしく奔騰することなかる可く、投機者に誤られて過剰の輸入に陥らざる限り反動的の大暴落は之を未前に防ぐことを得可し。要は其適當なる運用に在り。運用一度其度を過らば暴騰又は暴落何れかの方面に於ける大激變を免れざる可し。(大正七年五月二十日稿)